

100歳おめでとうございます

小室ていさんに松竹梅敬老祝金

11月7日に100歳を迎えた小室ていさんを山田市長が訪ね、松竹梅敬老祝金と祝詞を贈り長寿を祝いました。ていさんは大正のお生まれ。若いころは、製紙工場で働き、結婚後は養蚕の仕事の傍ら野菜を作りリヤカーに積んで市街地まで売りに行き子ども4人を育てました。現在は孫11人、ひ孫が17人います。特技は、和裁を習っていたことがあり、着物の仕立てや、編み物も得意でした。食べ物の好き嫌いはなく、食事は家族と一緒に同じものを食べているそうです。市長の訪問に、「忙しいのに申し訳ない。ありがたい」と話していました。



▲家族からの花束と祝詞を手山田市長と記念撮影するていさん

みんなで「トリックオアトリート！」

第一幼稚園で国際交流ハロウィーン

10月25日、第一幼稚園でALT（外国語指導助手）を招いた「国際交流ハロウィーン」を行いました。この催しは、園児に外国の文化や言葉に親しんでもらおうと開催し、今年で7回目。園児はハロウィーンにちなんだ手づくりの衣装を着て、ダンスを披露したり、園庭でのゲームを楽しんだりしました。ALTのフローレンスさんは英語でのカードゲームに参加。簡単な英語の問いかけに、園児は意味を想像しながらカードを選びました。フローレンスさんは「子どもたちはいつも元気100%。ハロウィーンを楽しんでいますね」と話してくれました。



▲聞いたことがある英単語。想像力を働かせました

信用金庫のネットワークを活用

神奈川県観光バスツアーを誘致

11月7日、神奈川県平塚信用金庫のバスツアー客約160人が白石市を訪れました。このツアーは神奈川県平塚信用金庫が企画する年金受給者を対象としたツアーで、本市と包括連携協定を結んだ仙南信用金庫が、全国の信用金庫ネットワークを活用して本市に誘致したものです。ツアー客は城下広場で歓迎を受けたあと、白石城を見学し、城下広場に設営された物販ブースで買い物を楽しんでいきました。このツアーは1泊2日の行程で白石、仙台、松島などを巡り、16日までに6回、計約700人が本市を訪れました。



▲ツアー客を出迎えた仙南信金と市職員、地場産品ブースの皆さん

100歳おめでとうございます

長谷部ちよさんに松竹梅敬老祝金

10月25日に100歳を迎えた長谷部ちよさんを山田市長が訪ね、松竹梅敬老祝金と祝詞を贈り長寿を祝いました。ちよさんは村田町のお生まれ。戦後まもなく夫に先立たれ家業である衣類の行商を引き継ぎ、小柄な体に重い衣類の包みを背負い訪問販売をして子ども4人を育てました。現在は、孫が9人、ひ孫が11人います。グループホームの生活では、施設のみんなの顔を見ながらリビングで過ごすことが多いそうです。長寿の秘訣は「女手一つで子どもたちを育てなければならぬという強い気持ちで生きてきたこと」と家族が話してくれました。



▲施設からの花束と祝詞を手山田市長と記念撮影するちよさん

出てくる出てくるサツマイモ！

深谷保育園園児がサツマイモ収穫体験

10月27日、深谷保育園の3～5歳児34人がサツマイモ掘りを体験しました。この催しは、小十郎の郷を運営するNPO法人小十郎まちづくりネットワーク（佐藤賢一理事長）が、食育の一環として子どもたちに農作物に触れてもらおうと企画し、今年で4回目。園児たちは、園近くの同法人理事の畑で、土を掘ると出てくるサツマイモに興奮した様子で収穫していました。

大きなサツマイモを掘り出した園児は、「大きいのが採れてうれしかったです。おうちでシチューにして食べたいです」と笑顔で話してくれました。



▲土を掘ると出てくるサツマイモに大興奮の園児たち

地域に広げよう！健康とささえあいの輪

第9回白石市健康福祉まつり

11月3日、「第9回白石市健康福祉まつり」をホワイトキューブで開催しました。障がいのあるなしに関わらず地域で暮らせる社会、からだも心も健康であることの大切さに気づく社会づくりを目指して開催しているこのイベント。会場には、各種健診や車いす・手話などの体験、福祉団体による歌や太鼓の披露、作品展示などの多彩なコーナーが設けられ、約1,900人の来場者でにぎわいました。会場には中高生や大学生のボランティアも参加し、さまざまな団体や世代が集まって交流を深め、健康や福祉を見つめるイベントとなりました。



▲ステージで歌を披露した白石陽光園の皆さん

おいしい秋いっぱい あふれる笑顔

第39回白石市農業祭

11月11日・12日の両日、ホワイトキューブで毎年恒例の農業祭を開催しました。今年で39回目を迎えた農業祭。会場には農家の皆さんが丹精込めて育てた、彩り豊かな秋の実りがズラリ！開場前から大勢の人が詰め掛け、2日間で約30,000人が訪れました。

「おいしい秋 みつけた！」の合言葉どおり、農産物コンテストには約460点が出品されたほか、毎年人気

の新米すくい取りや、恒例の認定農業者連絡協議会餅まきにはたくさんの方が参加。また、姉妹都市である北海道登別市と神奈川県海老名市や、みちのく真田ゆかりの地である蔵王町と秋田県由利本荘市のおいしい物産も大集合！楽しいステージイベントも行われ、会場の至る所で「おいしい」「楽しい」という声や笑顔が見られ、大いに盛り上がりました。



1_大人気新米すくい取りには大人から子どもまで大勢の人が参加
2_農協女性部による餅つき。山田市長もきねを手にとった！
3_みちのく真田ゆかりの地の物産が当たる抽選会 4_季節の野菜が並んだ農産物コンテスト 5_市が特産化を目指すスキイモの活用策の研究成果を紹介し試食や販売も行った柴田農林高等学校